

平成28年度第2回秋田県立近代美術館協議会（要旨）

日時：平成29年1月20日（金）13:30～15:00
会場：秋田県立近代美術館 研修室

出席者：会長 木村 雅美 横手市まちづくり推進部生涯学習課長
副会長 亀沢 修 小坂町教育委員会事務局長
委員 浅野 壽里 アート教室「森のおと」主宰
" 泉 一志 秋田魁新報社文化部長
" 樫尾 典子 公募（イベント会社役員・司会業）
" 澤谷 ゆりか 秋田ふるさと村総務部総務課長
" 永沢 弘 横手市立横手南小学校長
" 松田 砂織 えがおの花書道教室代表
事務局 仲町 啓子 近代美術館 館長
" 林 栄美子 生涯学習課 生涯学習・学芸振興班 学芸主事
" 三浦 直 近代美術館 副館長
" 保泉 充 " 学芸班 主任学芸主事（兼）班長
" 古村 光晴 " 総務班 副主幹（兼）班長
" 柴田 卓也 " " 副主幹
" 茂木 亨 " " 主査
" 木村 雅洋 " 学芸班 学芸主事
" 藤井 正輝 " " "
" 奈良 香 " " "
" 小林 紀子 " " "
" 鈴木 京 " " "

<次第>

- 1 開会
- 2 館長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 協議

- (1) 平成28年度近代美術館事業の概況について
- (2) 平成29年度近代美術館事業の概要について

三浦副館長が、パワーポイントを使用して(1)(2)について一括して事業等を説明

- (3) (1)・(2)について一括の協議・質疑応答

- 5 閉会

<協議概要>

■ 秋田蘭画、先覚者

東京のサントリー美術館において「秋田蘭画と小田野直武」展が開催された。首都圏で秋田蘭画にスポットが当てられたことは非常に喜ばしいこと。近代美術館でも重要文化財の「不忍池図」のレプリカを製作し出前美術館で展示したり、小学生にも分かりやすい視点で秋田蘭画のリーフレットを制作したりしている。ここからもっと県民にPRを。

教養としての美術、若い世代（後生）にどうやって伝えていくか。平福百穂や、現在展覧会を開催している寺崎廣業など、秋田が生んだ先覚の作家や作品の価値の広報にもっと力を。

橘小夢とその時代展では、一般には知られていない作家を掘り起こし、調査研究しながらの展覧会開催となった。湯沢雄勝地域の協力により作品の商品ラベル等への使用など地域を挙げての活動がみられた。当該作家に限らず、他団体や他分野に取り上げてもらう（例えば舞台劇の主人公）などの連携が取れるようになると良いのではないか。

秋田の美術文化について、我々が後生への伝達者にならなければ。

■ 展覧会

内容の良さと来館者数が単純に一致しない。次年度の国立西洋美術館展に大きな期待が寄せられるが、所蔵品（企画展やコレクション展等）の良さも広報活動に力を入れてPRを。

来場者アンケートから、マスコミによる宣伝・PRの力が大きいのは分かるが、口コミによる来場者も少なからずいる。最近の映画等の宣伝には、試写会や一般上映開始後の鑑賞者体験をPRに活用しているシーンを目にする。美術館における展覧会でも、開催途中に、来場者の「良かった！」という声を発信することが、強力な宣伝効果になるのではないか。

■ 教育普及について

○ 出前美術館

他館ではなかなかできないこと。学校としては探究型の体験授業が可能となる良い機会。通常は学校から美術館への移動に、時間と経費を費やすので。（将来的にはテレビ会議システムなど、学校と美術館が繋がるようになれば、遠い地域の学校との連携も生まれるのではないか）

平成30年度に、秋田県で全国小・中学校の造形研究大会が開催される。これを機会に、平成29・30年度と連続して同一市において出前美術館を開催し、研究の一助となる事業になるように策定中。

○ ふれんどりーギャラリー

当該ギャラリーによる展示を観覧して、作り手側（出品展示する学校の児童生徒）のモチベーションが高かったであろうと想像できる。子どもたちは、発表の機会が設けられることが少ないのでありがたい。教職員の集まる機会を利用して、もっとPRしていく。美術館側でもフィードバックして、実施後の体験談等を口コミで広めていけるように。

○ セカンドスクールや美術館教室等の各種事業

子育て中の親世代にとって、子供たちに様々な体験活動を実施してくれていることをありがたいと感じる。それが、一部の方だけでなく一般の方にも周知されれば、家族での来館につながるのでは。様々な仕掛けをつくっていけば、例えばカップルでの来館などに繋がるのでは。